

研究主題

生徒一人一人の学びを支える指導及び支援に関する研究（2年次）

— 都立高等学校における読み書きの基礎につまずきがある生徒
の「分かり方の特性」に応じた指導及び支援の工夫 —

目 次

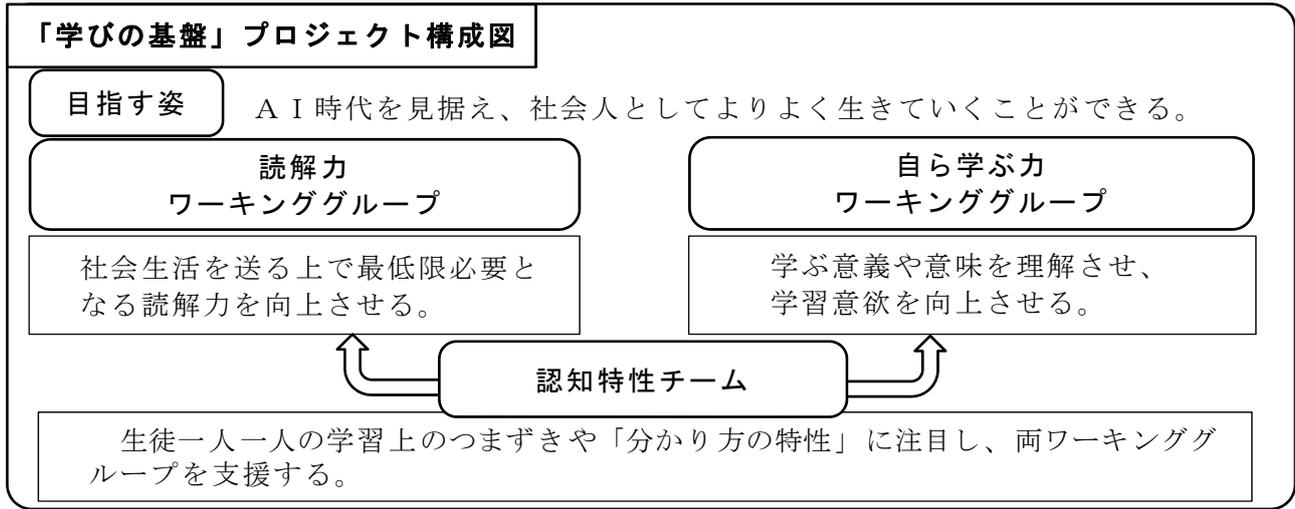
第 1	研究の概要	4
第 2	研究の背景	5
第 3	研究のねらい	
1	1年次の研究の成果と課題	5
2	2年次の研究のねらい	6
第 4	研究の方法	
1	研究の体制	6
2	研究の経過	7
第 5	研究の内容	7
1	基礎研究	7
2	調査研究	
(1)	生徒一人一人の学習上のつまずきの把握について	8
(2)	生徒一人一人の認知特性の把握について	10
3	開発研究	
(1)	役割分担を明確にした話し合い活動を取り入れた学習	11
(2)	グループワーク記録ブックの活用	11
(3)	役割分担を明確にした話し合い活動を取り入れた学習を設定した1単位時間の授業モデル	15
4	学習指導事例	16
5	検証授業	17
6	検証授業の結果	25
第 6	研究の成果と今後の取組	
1	研究の成果	27
2	今後の取組	27
資料		28

＜研究の成果と活用＞

- | |
|--|
| <p>1 研究の成果
生徒一人一人の学習上のつまずきと認知特性の状況を一覧できる「ステータスシート（教師用及び生徒用）」の開発及びそれらに応じた指導・支援の工夫の提案</p> <p>2 研究成果の活用
「ステータスシート」及び学習指導事例を基にした授業改善</p> |
|--|

第1 研究の概要

<p>社会状況の変化 AI時代を見据え、「思考する力」や「創造する力」の育成が必要であり、国語や数学など教科の枠を越え、様々な立場から「読解力」の向上に向けて、効果的な指導法を開発していくことが必要である。</p>	<p>東京都教育ビジョン（第4次） ○基本的な方針1 ・施策展開の方向性① ・主な施策展開 高等学校における学力の確実な定着</p>	<p>生徒の実態 平成28年度実施の「都立高校生意識調査」では、「中学校までの学習で苦手科目があり、高校での勉強についていけないと感じることがありますか」との質問に、「ある」と回答した生徒の割合は約65%である。</p>
--	---	---



研究主題 生徒一人一人の学びを支える指導及び支援に関する研究（2年次）
－ 都立高等学校における読み書きの基礎につまずきがある生徒の「分かり方の特性」に応じた指導及び支援の工夫 －

- 1 年次の成果を踏まえた本年度の取組
- 1 年次の成果であるステータスシートを活用し、開発した国語科「国語総合」「水の東西」の学習指導案について検証を行うとともに、改善を図ること
 - 「自ら学ぶ力ワーキンググループ」への支援として、生徒一人一人が自身の特性を自覚し、その特性を学習に生かせるような指導・支援の手だてを考えること

研究の内容と方法

高等学校における、アセスメントに基づいた生徒一人一人の学習上のつまずきと認知特性の把握及び指導資料の開発【2年次】

- 1 基礎研究**
生徒一人一人の学習上のつまずきと認知特性を踏まえて、「自ら学ぶ力」を向上させる指導・支援の方法に関わる理論の構築
- 2 調査研究**
(1) 「『読めた』『わかった』『できた』読み書きアセスメント 中学校版」（平成30年3月東京都教育委員会）の実施による学習上のつまずき及び認知特性の分析
(2) 読み書きアセスメントの結果から分かる、学習上のつまずきの分析
- 3 開発研究**
(1) ステータスシートを活用した国語科「国語総合」「水の東西」の学習指導案の改善
(2) 生徒一人一人が、自身の特性を生かして意欲的に学習に取り組むことができる学習モデルの開発（地理歴史科・公民科）

第2 研究の背景

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（平成28年12月21日）では、人工能にはない人間の強みとして「多様な文脈が複雑に入り交じった環境の中でも、場面や状況を理解して自ら目的を設定し、その目的に応じて必要な情報を見だし、情報を基に深く理解して自分の考えをまとめたり、相手にふさわしい表現を工夫したり、答えのない課題に対して、多様な他者と協働しながら目的に応じた納得解を見いだしたりすることができるという強みを持っている。」と述べられている。また、平成28年度実施の「都立高校生意識調査」では、「中学校までの学習で苦手科目があり、高校での勉強についていけないと感じることがありますか」との質問に、「ある」と回答した高校生の割合は約65%であり、多くの高校生が、学習を進める上で不安を感じていることが明らかとなった。

こうした社会状況を踏まえ、東京都教育委員会は、AIやIoTが急速に高度化したSociety5.0時代の到来を見据え、人間にしかできない「思考する力」と「創造する力」の育成を目指して、都立高校生を対象とした「学びの基盤」プロジェクトを設置した（平成30年10月）。「学びの基盤」プロジェクトには、教育庁指導部において、5年計画で、「思考する力」の基盤となる能力として、「読解力」の向上を目指す「読解力ワーキンググループ」、「創造する力」の基盤となる能力として、自身の知識や技能を更新し続ける「自ら学ぶ力」の向上を目指す「自ら学ぶ力ワーキンググループ」が組織された。

その協議を通じて、都立高校生に対し、読解力と自ら学ぶ力を向上させるには、第1に小・中学校段階での学習上のつまずきを明らかにし、そのつまずきに応じた学習の支援を行う必要があること、第2に、生徒が情報を理解したり表現したりする方法、すなわち認知特性が生徒一人一人によって異なるということを踏まえ、その認知特性に応じた学習の支援を行う必要があることが指摘された。そのため「読解力ワーキンググループ」、「自ら学ぶ力ワーキンググループ」とは別に、生徒一人一人の学習上のつまずきと認知特性を把握する方法及びそれぞれに応じた学習法の研究が求められた。そこで東京都教職員研修センターは、「学びの基盤」プロジェクト「認知特性チーム」を組織し、平成31年度（2019年度）に研究を始めた。以上の経緯から、本研究は、都立高校生を対象に、生徒一人一人の「認知特性」と「学習上のつまずき」を明らかにし、生徒一人一人に合わせた指導方法や支援方法を開発することを目指して、教育庁指導部との連携の下に行うこととした。

第3 研究のねらい

1 1年次の研究の成果と課題

(1) 成果

本研究の1年次では、「生徒一人一人の学習上のつまずきと認知特性の違いのそれぞれに応じた指導・支援の方法」に着目した。生徒一人一人の学習上のつまずきと認知特性の違いを把握するため、研究協力校6校の第1学年に在籍する生徒1,407人を対象に、「『読めた』『分かった』『できた』読み書きアセスメント 中学校版」（平成30年3月 東京都教育委員会）（以下、「読み書きアセスメント」という。）を実施し、読み書きについての学習上のつまずきと、「情報の理解」、「情報の活用」それぞれにおける認知の優位性の分析を行った。分析結

果は、生徒一人一人の学習上のつまずきと認知特性を把握するための資料である「ステータスシート」^{※1}にまとめるとともに、学習上のつまずきとそれぞれの認知特性に合わせた指導や支援方法を学習場面に位置付けた国語科「国語総合」の学習指導案を作成した。

(2) 課題

2年次に向けての課題の第1として、「ステータスシート」で明らかにした生徒一人一人の認知特性が、あくまで教員からの見取りによって判定されたものであったということである。教員の見取りによって把握した生徒の認知特性は、生徒理解の方法の一つとして、指導方法の改善や個に応じた指導の工夫において役立つことは分かったものの、生徒自身の学習意欲の向上など「自ら学ぶ力」の向上という側面からは検証が不十分であった。

第2に、「ステータスシート」で把握した生徒一人一人の学習上のつまずきに応じて、読解力を向上させることを目指した手だてが国語科に限定されてしまったことである。読解力の向上に向けた取組は、全ての教科等で取り組むべき課題であり、その追求は国語科を要としながらも、国語科に限定されるものではない。そのため、全ての教科等で取り組むことができる工夫と、読解力を向上させる手だてを他の教科等においても開発する必要がある。

2 2年次の研究のねらい

(1) 生徒自身が自分のよさや可能性を認識し、それを生かして学習に取り組めるような工夫を考えること

教員が生徒の認知特性を判定するだけでなく、生徒自身が自分のよさや得意なことを自覚し、それを学習活動に生かすことができる学習場面を授業計画の中に設定することとした。本研究ではこのことにより、生徒が意欲的に学習に取り組み、自らの知識や技能を更新し、改善していこうとする態度の育成をねらい、そのための指導・支援の手だてを追究することとした。

(2) 読解力の向上を目指した指導・支援の工夫を他教科等でも行えるようにすること

読解力は学習の基盤となる資質・能力の一つであり、国語科の授業だけで育成されるものではない。本研究部会では、本研究における読解力の定義及び到達点を「全ての生徒が教科書に書いてある文章の意味を、専門的な用語を含めて理解すること」と設定し、そのための指導・支援の手だてをどのように教科等の指導内容に位置付け、展開していくかを追究することとした。

以上の2点を通じて、「生徒一人一人の認知特性と学習上のつまずきを踏まえた『自ら学ぶ力』と『読解力』の育成」を図ることとする。

第4 研究の方法

1 研究の体制

研究を推進するに当たり、研究部会を組織し、東京都教職員研修センター所員16人（統括指導主事3人、指導主事7人、教員研究生6人）により研究を進めた。

また、研究の内容や方向性等について国立大学法人東京学芸大学教育学部特別支援科学講座教授 奥住 秀之 氏及び、学校法人東京聖栄大学健康栄養学部管理栄養学科教授 有村 久春 氏から指導・助言を受け、研究を進めた。

※1 ステータスシートについては、平成31年度（2019年度）東京都教職員研修センター紀要第19号 P59を参照

2 研究の経過

研究の経過については、表1のとおりである。

表1 研究経過

期間	内容
令和2年2月～3月	研究基本構想
4月～5月	基礎研究
5月～8月	調査研究・開発研究
9月30日	教育課題研究中間報告会
9月～11月	研究協力校での検証授業の実施・分析・考察
11月19日	研究部会において、東京聖栄大学教授 有村 久春 氏の指導・助言
12月	研究のまとめ
令和3年1月19日	教育課題研究発表会において、研究内容の発表
令和3年2月～3月	指導資料及び都教委訪問モデルプランの作成

※上記に加え、研究部会を月に2回程度実施

また、研究協力校6校のうち3校において、計9回の検証授業を行った。研究協力校及び検証授業の実施については、表2のとおりである。

表2 検証授業

研究協力校	検証授業の実施学年、科目名及び日程
都立東村山高等学校	第1学年 国語総合（令和2年9月8日～9月23日）
	第1学年 地理A（令和2年11月25日、26日）
都立足立東高等学校	第1学年 地理A（令和2年11月16日）
都立秋留台高等学校	第1学年 国語総合（令和2年11月12日）
	第1学年 地理A（令和2年12月22日）

第5 研究の内容

研究のねらいを踏まえ、研究する内容を「生徒一人一人の認知特性と学習上のつまずきを踏まえた『自ら学ぶ力』と『読解力』の育成」とし、2年間の計画で行った。

1年次の基礎研究では、平成28年度教育課題研究「『分かり方の特性』に関する研究」を基に、高校生を対象とした指導・支援の方法について理論を構築した。また研究協力校において「読み書きアセスメント」を実施し、結果を収集・分析することで生徒のつまずきの傾向と認知特性の傾向を明らかにするとともに、生徒一人一人の学習上のつまずきと認知特性が一覧できる「ステータスシート」を開発した。あわせて、「読み書きアセスメント」の結果及び高等学校における個に応じた指導の事例を基に、読解力及び自ら学ぶ力の向上を目的として、国語科「国語総合」の「水の東西」において学習指導案を作成した。

2年次は、1年次で開発した学習指導案の実施、検証、改善を行うとともに、「ステータスシート」を踏まえ、生徒自身が自分のよさや得意なことを自覚し、それを学習活動に生かすことができる地理歴史科「地理A」及び公民科「現代社会」の学習指導案を作成した。

1 基礎研究 生徒自身が自分のよさや得意なことを自覚し、それを活動に生かす学習

「読み書きアセスメント」では、日頃の授業や学校生活での様子から、教員が「聞く／読む」、「話す／書く」のどちらに優位性があるかを判定した。しかし、これは必ずしも生徒自身が感じている自らの特性とは一致しない。生徒自身が自分のよさや得意なことを自覚する場面は学校生活で様々に想定されるが、教員がその優位性を意図的に学習活動に結び付け

ることを考えた場合、生徒が自身の認知特性を自覚できる場面に授業において設定しておく必要がある。そのため、本研究部会では授業場面の中で、生徒自身が自分のよさに気付く活動について協議を重ね、ヴィゴツキーの理論に基づいた「相互教授法^{※2}」を援用した。（図1）

本研究部会では、「相互教授法」の「役割を受けもち、その役割のもとに交互に対話を繰り返す」という部分に着目し、グループ学習の手法と関連させつつ、読解力と自ら学ぶ力を向上させる指導法の基礎理論を整理した。

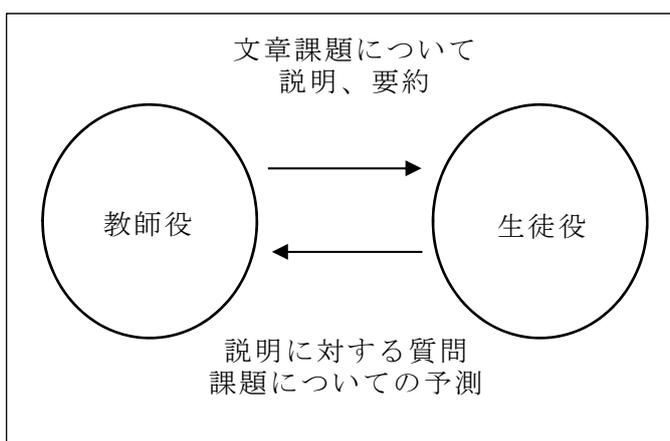


図1 相互教授法のモデル図

2 調査研究

(1) 生徒一人一人の学習上のつまずきの把握について

ア 調査方法

「読み書きアセスメント」にある、国語の基礎的な学力を測る「読み書き達成テスト」及び生徒の特性を把握する「学校で見られる行動のチェックリスト」を用いて、研究協力校6校のうち、5校の第1学年に在籍する1,054人を対象に、中学校までの国語の知識の定着度を測定した。

表3 「読み書き達成テスト」出題分野及び概要

問題領域	出題分野	問題数	特徴
読解に関連する問	文章読解	8問	約650字の環境問題に関する文章を読み、指示語、接続語、段落構成、筆者の主張、要旨等を記号式で問う。
	図表読み取り	3問	ある学校での入部希望の部活動を縦棒グラフで表し、最大値や他の要素との比較で正しい文章を記号式で問う。
漢字の知識に関連する問	漢字の読み	20問	中学校までの学習漢字で、リード文なしの二字の熟語を記述式で問う。
	漢字の書き	8問	小学校までの学習漢字で、リード文有りの二字の熟語を記述式で問う。

※2 相互教授法 (reciprocal teaching) とは、ソビエト連邦 (現ロシア) の心理学者レフ・セミョノヴィチ・ヴィゴツキーの「最近接発達領域」(他者との関わり合いの中で物事ができる (分かる) こと) の影響を受けてアン・ブラウンらによって提唱された理論である。ある文章課題について生徒が交互に教師役と生徒役になり、要約したり、質問したり、不明瞭な部分を明確にするよう促したり、予測したりするなどの役割を受けもち、その役割のもとに交互に対話を繰り返し、理解を相互に促進させることを目的とした学習法である。

イ 「読み書き達成テスト」の結果について

表4 研究協力校における出題分野ごとの正答率（令和2年5月～6月実施）

学校	文章読解	図表読み取り	漢字の読み	漢字の書き	全体の平均
高校①	63.5%	68.4%	43.1%	73.7%	55.5%
高校②	78.4%	83.3%	61.0%	83.4%	70.9%
高校③	75.6%	82.5%	60.6%	86.3%	70.6%
高校④	75.1%	78.5%	59.2%	84.3%	69.1%
高校⑤	63.0%	69.6%	39.9%	71.2%	53.3%

ウ 調査結果の分析

昨年度同様、「読み書き達成テスト」の出題領域を、「読解に関連する問」は「文章読解」、「図表読み取り」の2分野、「漢字の知識に関連する問」は「漢字の読み」、「漢字の書き」の2分野に整理して分類した。そして、読解に関連する問を横軸、漢字の知識に関連する問を縦軸として、それぞれの正答数の合計に基づき、図2の散布図を作成した。その上で、読解に関連する問、漢字の知識に関連する問をそれぞれの正答率の50%を境界として分割し、分割した領域をそれぞれA領域からD領域と呼称した。A領域からD領域までの各領域を分類した際の条件及び各領域に位置付けられた生徒の割合については、表5及び次頁表6に示すとおりである。

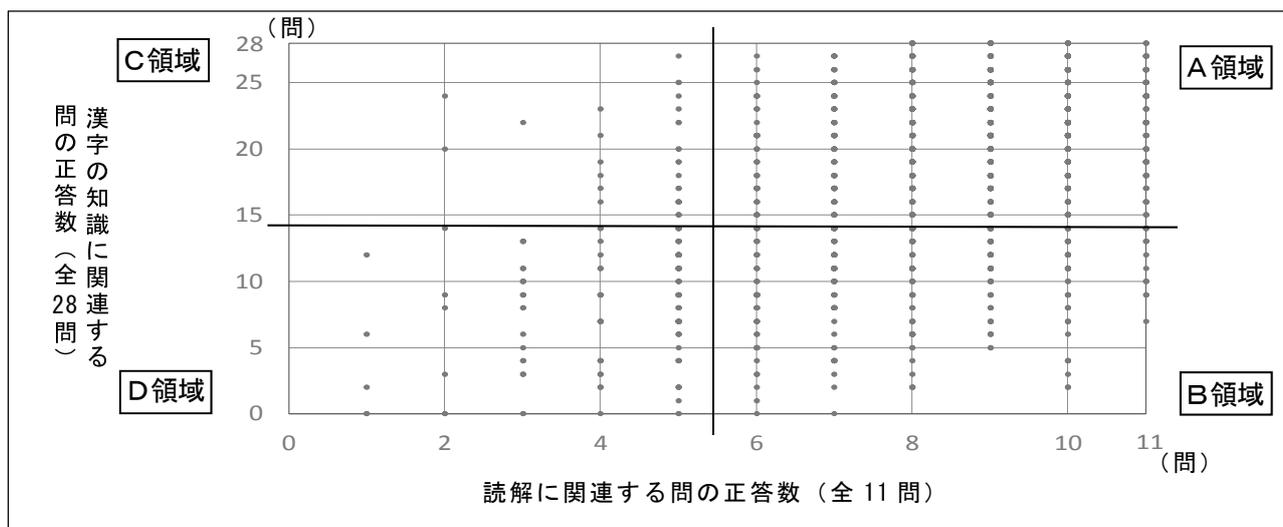


図2 「読み書き達成テスト」の結果における散布図

表5 A領域からD領域までの分類条件

領域名	分類条件
A領域	読解に関連する問と漢字の知識に関連する問のそれぞれの正答率が共に50%以上である生徒
B領域	読解に関連する問の正答率は50%以上であるものの、漢字の知識に関連する問の正答率が50%未満である生徒
C領域	漢字の知識に関連する問の正答率は50%以上であるものの、読解に関連する問の正答率が50%未満である生徒
D領域	読解に関連する問と漢字の知識に関連する問のそれぞれの正答率が共に50%未満である生徒

表6 研究協力校のうち5校における各領域の割合

	A領域	B領域	C領域	D領域
高校①	51.0%	29.9%	6.4%	12.7%
高校②	81.6%	11.5%	2.1%	4.7%
高校③	82.9%	10.7%	2.6%	3.8%
高校④	73.2%	19.6%	2.6%	4.6%
高校⑤	47.2%	32.3%	3.0%	17.4%

※小数第2位を四捨五入している。

A領域に位置付けられた生徒の割合は、学校によっては50%前後であった。このことから、中学校までの学習の定着に何らかの課題のある生徒が半数以上在籍していることが分かる。また、B領域に位置付けられる生徒は10%から30%までと幅広いが、学校によっては漢字の読み書きに課題がある生徒が1学級に十数名在籍していた。さらに、同じD領域に位置付けられる生徒であっても、漢字の知識に関連する問の出題を見ると、漢字の読みの正答率が低い生徒は、小学校までの学習は定着していると考えられるものの、中学校段階の学習につまずいた生徒であるなど多様な課題があることが分かる。（P8表3、表7）

表7 D領域に位置付けられた生徒における、学習上のつまずきの分析（例）

生徒	漢字の読みの正答率	漢字の書きの正答率	分析
生徒A	15.0%	100%	小学校までの学習は定着している。
生徒B	25.0%	37.5%	小学校段階から学習の定着に課題がある。

「読み書き達成テスト」の分析方法は、必ずしも「読み書きアセスメント」を用いなければならないというものではない。国語に関するアセスメントを「読解に関連する問」と「漢字の知識に関連する問」の2領域に分けて分析する手法は、生徒の学習上のつまずきを把握するための考え方の一つとして、有効である。

(2) 生徒一人一人の認知特性の把握について

ア 調査方法

「読み書きアセスメント」に含まれる「学校で見られる行動のチェックリスト」を用いて、研究協力校の生徒一人一人についての調査を行った。「学校で見られる行動のチェックリスト」は、生徒が情報を理解する方法として「読む」・「聞く」、情報を伝える手段として「書く」・「話す」のどちらに優位性があるかを4段階で把握するものである。

イ 「学校で見られる行動のチェックリスト」の結果について

「学校で見られる行動のチェックリスト」の結果は、図3に示すとおりとなった。

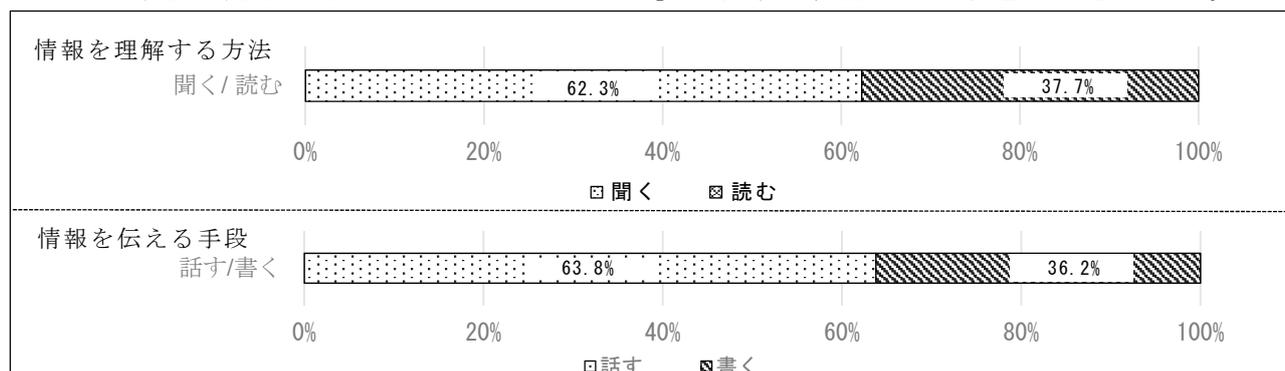


図3 「学校で見られる行動のチェックリスト」で判定した、優位性の傾向（研究協力校平均値）

前頁図3のグラフは研究協力校の平均値を基に作成した。どの学校においても「情報を理解する方法」については「聞く」に優位性があり、「情報を伝える手段」については「話す」に優位性があった。これらの分析結果は、昨年度と同様、生徒一人一人の学習上のつまずきと認知特性を把握するための「ステータスシート」としてまとめ、研究協力校に提供するとともに、開発研究を作成するに当たっての資料とした。（P6参照）

3 開発研究

基礎研究における基礎理論の整理と調査研究の分析及び昨年度の課題を踏まえ、生徒自身が自分のよさや可能性を認識し、それを生かして学習に取り組めるような工夫として、学習モデルを開発することとした。相互教授法の「生徒が役割を受けもち、その役割のもとに交互に対話を繰り返す授業」を基盤としながら、アクティブ・ラーニングの手法を取り入れることで、生徒自身が主体的に学習に取り組むことができるような学習モデルを目指した。それが「役割分担を明確にした話し合い活動を取り入れた学習」の学習モデル（図4）を位置付けた単元指導例である。

(1) 役割分担を明確にした話し合い活動を取り入れた学習

「役割分担を明確にした話し合い活動を取り入れた学習」では、一つの学級を4人ないし5人程度のグループに分け、グループ学習を行う。グループ内での生徒の役割は「ファシリテーター」、「発言者」及び「記録」である。授業における「問い」に対して、ファシリテーターが司会者となり、発言者Aに意見を促す。発言者Aは教科書や補助資料等から読み取った情報を基に、問いに対して意見や回答を述べる。発言者Bは発言者Aの意見に対して、反論を述べたり自分の意見を付加したりして、問いに対する自分たちの回答を構築する。その際、ファシリテーターは常に問いに対して正対した回答になっているかを意識しながら、議論の流れをコントロールする。

記録は、発言者の発言内容を記録し、学級全体での発表に備え、ポイントとなる部分を整理し、ファシリテーターと共有する。一つのグループの人数が5人以上である場合には、発言者を増やす。

(2) グループワーク記録ブックの活用

「役割分担を明確にした話し合い活動を取り入れた学習」において、自身が担った役割について評価を行う自己評価表である「キャラクターシート」を開発した。一つの単位を通じて複数の役割を担当し、役割で求められることを毎時間自己評価することで、自分の得意なことや苦手なことなどの自身の特性を把握できるシートである。また、それぞれの役

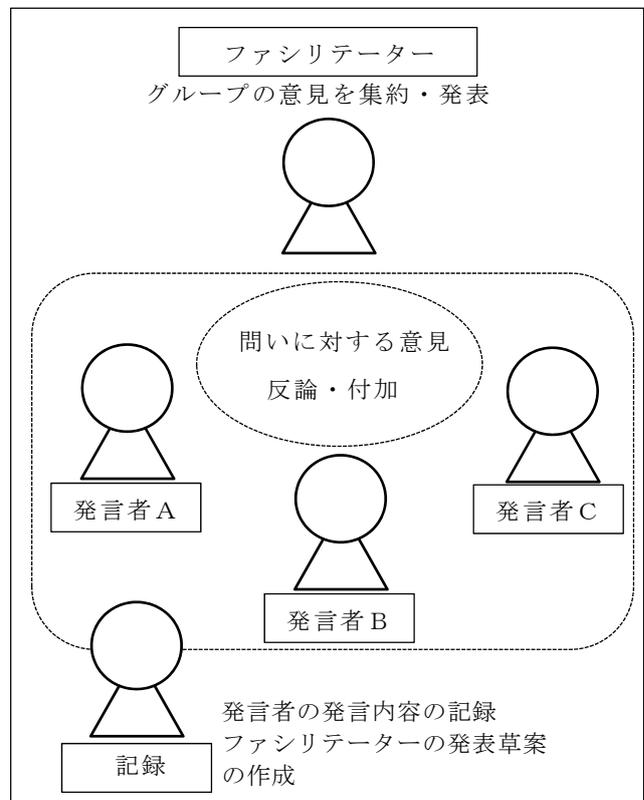


図4 「役割分担を明確にした話し合い活動」のモデル図

割についてのキャラクターシートを一つのシートにまとめ、レーダーチャートに転記して、それぞれの役割における評価を確認することで、自身がどのような役割に向いているのかを理解することができるシートを含めて「グループワーク記録ブック」とした。キャラクターシートの例は、以下のとおりである。

キャラクターシート

	ファシリテーター		第 回
	チェックポイント		
氏名	A 与えられた問いに対して、自分のゴールを設定してから議論を進めた。		
	B 与えられた問いに応えるために、議論しやすい点から始めた。		
	C 発言者から出された意見をまとめることで、一つの答えを導き出せた。		
	D 発言者の意見を聞くときは、メモを取りながら聞いた。		
	E 発言者から出された意見を聞くときには、図や表にまとめながら聞いた。		
	F 話しやすい雰囲気づくりに努め、発言者の意見を促すような進歩をした。		
実施日 月 日	G チームとしての答えが、参加者全員が納得できるものになっているか。		
	☆発言者から意見を出してもらっただけの話合いになった。		
	【対発言者】 自分ならもっといい意見が言えたと思う。		
	【対記録】 自分ならもっと上手に記録できたと思う。		

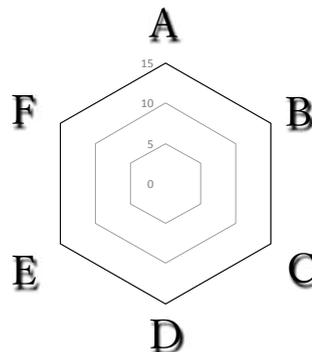
※判定欄には、よくできたと思う順に5、4、3、2、1を記入する。
 ※〔対発言者〕、〔対記録〕の判定欄には、3を基準とし、自分の方がよくできると感じたら5、4、自分よりも今回の発言者、記録者が優れていると感じたら2、1を記入する。

ファシリテーター点の集計

チェックポイント	1回	2回	3回	計
A 与えられた問いに対して、自分のゴールを設定してから議論を進めた。				
B 与えられた問いに応えるために、議論しやすい点から始めた。				
C 発言者から出された意見をまとめることで、一つの答えを導き出せた。				
D 発言者の意見を聞くときは、メモを取りながら聞いた。				
E 発言者から出された意見を聞くときには、図や表にまとめながら聞いた。				
F 話しやすい雰囲気づくりに努め、発言者の意見を促すような進歩をした。				
計				
G チームとしての答えが、参加者全員が納得できるものになっているか。				
総計				
☆の点数×3を総計から引いたもの				
■の点をIの表に当てはめた評価				

表 I

■の点	評価
81点以上	4
59点～80点	3
37点～58点	2
36点以下	1



キャラクターシート

	発言者	第 回	
	チェックポイント		判定
	A 課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重し、自分のゴールイメージをもって、表現の仕方や進行の仕方などを工夫して話し合った。		
	B 課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重し、他の発言者の意見一つ一つを吟味しながら、表現の仕方や進行の仕方などを工夫して話し合った。		
	C 課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重し、他の発言者の意見を正確に理解しながら、表現の仕方や進行の仕方などを工夫して話し合った。		
D 課題を解決したり考えを深めたりするために、キーワードなどをメモに取って聞きながら、表現の仕方や進行の仕方などを工夫して話し合った。			
氏名	E 課題を解決したり考えを深めたりするために、図や表などを活用して、表現の仕方や進行の仕方などを工夫して話し合った。		
	F 必要に応じて、簡単な動作を交えて発言した。		
	G 課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重し、意見を引き出す相槌や意見を伝える身振りをして、表現の仕方や進行の仕方などを工夫して話し合った。		
	☆課題を解決するために、論拠のある発言をできなかった。		
実施日 月 日	【対ファシリテーター】	自分ならもっとうまく議論をまとめられたと思う。	
	【対記録】	自分ならもっと上手に記録できたと思う。	

※判定欄には、よくできたと思う順に5、4、3、2、1を記入する。

※【対ファシリテーター】、【対記録】の判定欄には、3を基準とし、自分の方がよくできると感じたら5、4、自分よりも今回のファシリテーター、記録者が優れていると感じたら2、1を記入する。

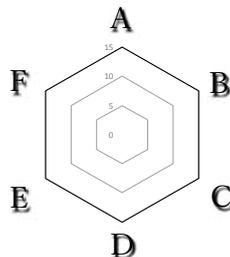
発言者点の集計

チェックポイント	1回	2回	3回	計
A 課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重し、自分のゴールイメージをもって、表現の仕方や進行の仕方などを工夫して話し合った。				
B 課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重し、他の発言者の意見一つ一つを吟味しながら、表現の仕方や進行の仕方などを工夫して話し合った。				
C 課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重し、他の発言者の意見を正確に理解しながら、表現の仕方や進行の仕方などを工夫して話し合った。				
D 課題を解決したり考えを深めたりするために、キーワードなどをメモに取って聞きながら、表現の仕方や進行の仕方などを工夫して話し合った。				
E 課題を解決したり考えを深めたりするために、図や表などを活用して、表現の仕方や進行の仕方などを工夫して話し合った。				
F 必要に応じて、簡単な動作を交えて発言した。				
計				
G 課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重し、意見を引き出す相槌や意見を伝える身振りをして、表現の仕方や進行の仕方などを工夫して話し合った。				
総計				

☆の点数×3を総計から引いたもの
 □の点をIの表に当てはめた評価

表I

□の点	評価
81点以上	4
59点～80点	3
37点～58点	2
36点以下	1



キャラクターシート

	記録		第 回	
	チェックポイント			判定
	A	課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重し、自分のゴールイメージをもって、表現の仕方や進行の仕方などを工夫して話し合いを記録した。		
	B	課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重し、他の発言者の意見一つ一つを吟味しながら、表現の仕方や進行の仕方などを工夫して話し合いを記録した。		
	C	課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重し、他の発言者の意見を正確に理解しながら、表現の仕方や進行の仕方などを工夫して話し合いを記録した。		
氏名	D	課題を解決したり考えを深めたりするために、キーワードなどをメモに取って聞きながら、表現の仕方や進行の仕方などを工夫して話し合いを記録した。		
	E	課題を解決したり考えを深めたりするために、図や表などを活用して、表現の仕方や進行の仕方などを工夫して話し合いを記録した。		
	F	発言者やファシリテーターの発言を補うために、イラストを描き加えたり、当時の表情や様子を書き加えたりするなど、自分なりに工夫して記録することができた。		
	G	課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重し、意見を引き出す相槌や意見を伝える身振りをして、表現の仕方や進行の仕方などを工夫して話し合いを記録した。		
実施日 月 日	【対ファシリテーター】	自分ならもっとうまく議論をまとめられたと思う。		
	【対発言者】	自分ならもっと上手に記録できたと思う。		

記録点の集計

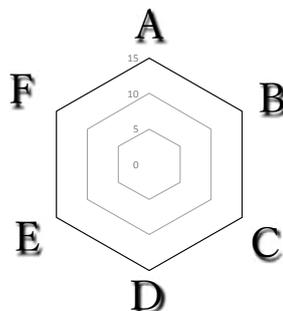
チェックポイント	1回	2回	3回	計
A 課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重し、自分のゴールイメージをもって、表現の仕方や進行の仕方などを工夫して話し合いを記録した。				
B 課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重し、他の発言者の意見一つ一つを吟味しながら、表現の仕方や進行の仕方などを工夫して話し合いを記録した。				
C 課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重し、他の発言者の意見を正確に理解しながら、表現の仕方や進行の仕方などを工夫して話し合いを記録した。				
D 課題を解決したり考えを深めたりするために、キーワードなどをメモに取って聞きながら、表現の仕方や進行の仕方などを工夫して話し合いを記録した。				
E 課題を解決したり考えを深めたりするために、図や表などを活用して、表現の仕方や進行の仕方などを工夫して話し合いを記録した。				
F 発言者やファシリテーターの発言を補うために、イラストを描き加えたり、当時の表情や様子を書き加えたりするなど、自分なりに工夫して記録することができた。				
計				
G 課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重し、意見を引き出す相槌や意見を伝える身振りをして、表現の仕方や進行の仕方などを工夫して話し合いを記録した。				
総計				

☆の点数×3を総計から引いたもの

■の点をIの表に当てはめた評価

表 I

■の点	評価
81点以上	4
59点～80点	3
37点～58点	2
36点以下	1



(3) 役割分担を明確にした話し合い活動を取り入れた学習を設定した1単位時間の授業モデル

役割分担を明確にした話し合い活動を学習活動に設定した1単位時間の授業づくりのモデルと学習の流れは、表8に示すとおりである。

表8 1単位時間の授業づくりのモデルと学習の流れ

段階	手順	準備する内容及び計画
授業前	①	ステータスシートによる、学級における学習上のつまずきと認知特性の傾向の把握
	②	単元の中心的な問いと本時における1単位時間の問いの設定

段階	手順	学習活動及び活用する資料	育成を目指す能力
授業中	①	教科書を読み、内容を理解する。	読解力
		⇒「語句の意味表」の活用	
	②	1単位時間における問いに対する答えを思考・記述する。	読解力
		⇒「語句の意味表」の活用	
	③	「役割分担を明確にした話し合い活動」を行い、問いに対する答えをグループで導く。	自ら学ぶ力
		⇒「グループワーク記録ブック」の活用	
	④	1単位時間の問いに対する答えを学級で共有する。	

ア 単元の中心的な問いの設定

「読み書きアセスメント」の結果及び「ステータスシート」で把握した学級の学習上のつまずきと認知特性の傾向を踏まえ、単元の中心的な問いを設定する。単元の中心的な問いは、単元を通じて解決すべき課題であり、学習指導要領に基づく目標とともに、「教科の本質にふれ、社会で活用する力」の育成に関する目標に基づく問いである。単元の中心的な問いは、学校の状態や生徒の状態、年間指導計画における位置付けとも関連している。

イ 本時の問いの設定

単元の中心的な問いの設定後、本時における1単位時間の問いを設定する。1単位時間の問いは、単元の中心的な問いを思考し、解答するために、時間数に応じて設定する問いである。

ウ 授業における学習活動の重点の設定

「読み書きアセスメント」及び「ステータスシート」で把握した学級の傾向を踏まえ、各時間における学習活動の重点を設定する。例えば、「読む」ことに優位性がある生徒が多い学級では、教科書の読解と個人学習に重点を置いたり、「聞く」ことや「話す」ことに優位性がある生徒が多い学級では、話し合い活動に重点を置いたりするなど、学級の傾向に合わせて重点となる活動を工夫する。学級全体の傾向と異なる認知特性をもつ生徒に関しては、学習活動の中で個別に指導を行う計画も同時に設定する。

エ 教科書を読解し、内容を理解して思考する活動

授業では、はじめに教科書を読み、内容を理解する活動、次に1単位時間における問いに対する答えを教科書の記述を基に思考する活動を行う。教科書を読む際、語彙の不足や漢字の読み書きに課題があるB領域、D領域に位置付けられる生徒は、「語句の意味表」を活用する。「語句の意味表」は昨年度開発した、教科書を読み進めるための補助資料である。

オ 役割分担を明確にした話し合い活動

個人で思考した答えを基に「役割分担を明確にした話し合い活動」を行い、1 単位時間における問いに対する答えをグループでまとめる。各グループで導き出した答えは学級全体で共有し、他のグループの意見を基に、自身又はグループの答えを改善する。

なお、役割分担を明確にした話し合い活動については、「読み書きアセスメント」で判定した結果を基に、グループ学習が円滑に進行するよう意図的にA領域からD領域までの生徒を組み合わせたり、話すことが得意な生徒、書くことが得意な生徒をバランスよく配置したりするなど、学級の実態に合わせて座席の配置を組み合わせる工夫が必要であるが、2 回目以降は生徒自身の希望も配慮しつつ座席配置を検討することも重要である。（図5）

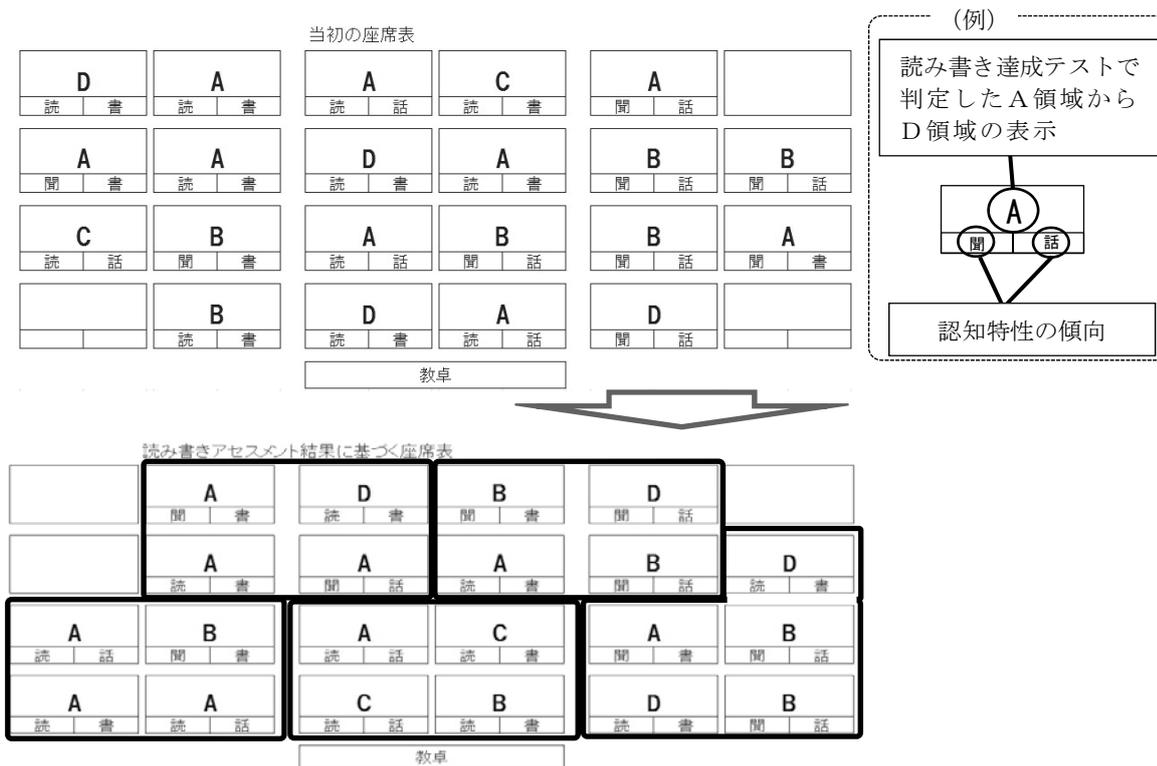


図5 ステータスシートを活用した座席表の工夫（例）

4 学習指導案例

「3 開発研究」を踏まえ、学習指導案例を28ページから34ページのように作成した。

学習指導案中の「語句の意味表」は、教科書に記述されている言葉のうち、主に中学校で学習する漢字が使用されている語句及び教科等で用いる専門的な用語について、あらかじめ意味を示した、簡易的な辞書としての活用を想定した資料である。また、漢字に関連する問の理解に課題があるB領域に位置付けられる生徒が多い学級においては、辞書としての活用の他に、例文を作成させることで語彙力を向上させることを想定したものでもある。

本年度は、昨年度の課題を踏まえ、公民科「現代社会」と地理歴史科「地理A」の2科目において、「読解力」と「自ら学ぶ力」の向上を目指す「役割分担を明確にした話し合い活動」を位置付けた単元の指導事例を開発した。指導事例の内容は、公民科「現代社会」の「現代の経済社会」（第5時）、地理歴史科「地理A」の「ヨーロッパ」（第2時）である。なお、本稿には1 単位時間に話し合い活動を設定している時間を本時の例として掲載する。

5 検証授業

15 ページの「1 単位時間の授業づくりのモデルと学習の流れ」及び 28 ページから 34 ページで示した学習指導案例を踏まえ、検証授業を実施した。

本年度の検証授業におけるポイントは次の 2 点である。

- ・「役割分担を明確にした話し合い活動」を設定し、生徒が自身の認知特性の傾向を把握すること
- ・自身の認知特性の傾向を把握したことで、自分がどのように学習に取り組んだらよいのかを考え、学習に結び付けようとする意欲を向上させること

また、検証授業を実施するに当たっては、授業づくりのモデルは踏襲しつつも、学習指導案に関しては学校や生徒の実態に合わせて修正した。本研究部会で開発した「グループワーク記録ブック」に他の資料を付加したり、単元の構成によってはグループワークと個人学習とを別の時間に設定する工夫も行っている。

次頁からは、1 単位時間の授業づくりのモデルと学習の流れを基にした研究協力校の授業実践の例を掲載した。研究協力校 6 校のうち、3 校を実施校として検証授業を行ったものの一部である。

地理歴史科及び公民科の検証授業に関しては、主に、役割分担を明確にした話し合い活動を設定した授業を行うことで、生徒が自身の認知特性の傾向を把握するという点、自身の認知特性の傾向を把握したことで、自分がどのように学習に取り組んだらよいのかを考え、学習に結び付けようとする意欲を向上させることの 2 点について検証を行った。

事例1

役割分担を明確にした話し合い活動を取り入れた授業実践例①

第1学年

地理A 単元「ヨーロッパ」 全12時間中の第4時

「役割分担を明確にした話し合い活動」をより活性化し、成果を視覚化するために、個人用ワークシートとグループワークの記録ワークシートを作成した。

本時の目標：ヨーロッパの自然環境の特徴を調べ、EU統合に対するメリットを考察する。

	活動内容	留意点／ポイント	評価 工夫
導入	<p>一斉学習 前時を振り返り、単元の問いと本時の目標を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT機器で拡大投影した地図で、河川、山脈等の位置を確認しながら振り返る。 前時の個人学習でまとめた「ヨーロッパの自然環境の特徴」を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を確認する際、「アルプス山脈」「対して（一方で）」という語句を必ず使用してまとめるように指示する。 	工夫 1
	<p>EUはなぜ現在のような形で統合したのだろうか (単元の中心的な問い)</p> <p>ヨーロッパの地形や気候は、EUの統合にどのようなメリットがあるだろうか (本時の問い)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 単元の問い、本時の問い、本時の学習事項及び学習の流れをICT機器で提示する。 [同・継] 	
展開	<p>グループワーク 本時の問いに対して、グループで回答する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時の個人学習でまとめた「ヨーロッパの自然環境の特徴」に基づいて、それぞれの意見をグループで共有する。 それぞれの意見を、資料を基に検証し、「ヨーロッパの自然環境の特徴」に対する回答をグループで統合する。 統合した回答を、「グループワークの記録」ワークシートに記録者を中心にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> グループワーク記録ブックの評価項目に基づき、机間指導を行う。 グループで統合した回答が、指示語や接続語を用いた文章で書かれているかどうかを確認し、必要があれば机間指導を行う。 	ウ① 工夫 2
	<p>一斉学習 個人学習</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループの考えを学級全体で共有し、指導者の説明を踏まえて自身の回答を修正する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自身の回答を自分なりに工夫して修正しているかを机間指導で確認する。 	エ①
まとめ	<p>個人学習</p> <ul style="list-style-type: none"> 「グループワークの記録」で本時の話し合い活動や学んだことについて、振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時における自身の役割を自己評価させる。 	

アレンジポイント1

個人用ワークシート

〈ヨーロッパの自然〉なぜ、EUはこのような形で統合したのか？ 教科書p92～93

問い ヨーロッパの自然環境（地形や気候）は、EU統合にどのようなメリットがあるだろうか。

バカンス：休み

急登：非常にけわしいこと、または、けわしい場所。

景観：景色、眺めやその美しさ。

丘陵：小山、丘、山地よりも低く広大な地形

勾配：傾斜の程度、斜面、ゆがみ

■アルプスが分ける自然環境

(1)【作業】教科書 p93⑥を参考にして、①～⑥にあてはまる自然地域名称を記入しよう。

①	川
②	平原
③	山脈
④	山脈
⑤	川
⑥	海



国際河川
 複数の国の領土を通過し、条約によりどの国の船舶でも自由に航行できる河川。

地理A 第3章7節ヨーロッパ

No.17

(2) [SW] ヨーロッパの自然環境の特徴をまとめよう。

Q 【キーワード】

- ・地中海性気候
- ・西岸海洋性気候
- ・国際河川
- ・観光業
- ・工業

北側
 南側

アルプス山脈

(3) [GW] ヨーロッパの自然環境の特徴をまとめよう。

区画 (文章・図・絵など表しやすい方法でOK)

追加ワード **アルプス山脈** 一方

区画 (全員で知識を出し合い文章でまとめよう。配属任せにしないこと！地図を使ってまとめた場合も発表用として作成)

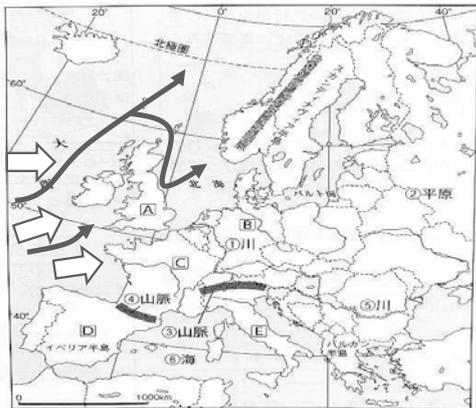
地理A 第3章7節ヨーロッパ

No.17

■ヨーロッパの自然環境とEU

【復習】EUの特色

- ①国境の通過が自由！…〔 〕
- * パスポート不要
 - * 仕事の資格が共通
 - * 他国の大学でも卒業資格が取れる
- ②域内の〔 〕撤廃
- ③単一通貨〔 〕の導入
- * 他国の銀行への預金が自由
 - * 両替不要



地理A 第3章7節ヨーロッパ

No.17

問い ヨーロッパの自然環境（地形や気候）は、EU統合にどのようなメリットがあるだろうか。

ヒント① 国単位で見ると「EU」として見るとどのような違いがある？

ヒント② 関税を撤廃することによりモノの移動はどのように考えられる？

ヒント③ 通貨やパスポートが共通になったことによりヒトの移動はどのように考えられる？

チャレンジ 接続詞「さらに」「また」などを用いて文章で表現してみよう！！

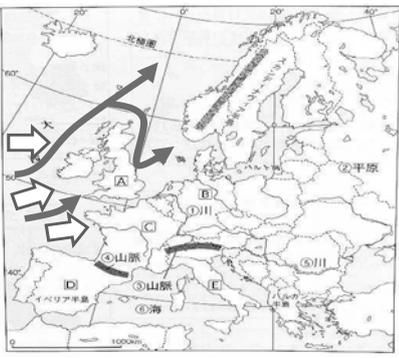
区画

「ヨーロッパの自然」▶▶▶「考えたこと」「できるようになったこと」「知ったこと」など

振り返り	模範的 (S)	優秀 (A)	発展中 (B)
	<input type="checkbox"/> 記入漏れがなく、必要な情報を十分メモできている。 <input type="checkbox"/> 学習内容や地図を参考に SW に取り組み、キーワードをすべて用いて自分の言葉で表現することができている。 <input type="checkbox"/> 既習事項や学習内容を振り返り、問いについて考察し、3つの観点から表現することができている。	<input type="checkbox"/> 記入漏れがない。 <input type="checkbox"/> 学習内容や地図を参考に SW に取り組み、キーワードの一部を用いて自分の言葉で表現することができている。 <input type="checkbox"/> 既習事項や学習内容を振り返り、問いについて考察し、1～2つの観点から表現することができている。	<input type="checkbox"/> 記入漏れがある。 <input type="checkbox"/> 学習内容や地図を参考に SW に取り組もうとしなかった、自分の言葉で表現しようとしなかった。(周りの人に見せてもらった) <input type="checkbox"/> 既習事項や学習内容を振り返り、問いについて考察しようとしなかった、表現しようとしなかった。(周りの人に見せてもらった)

アレンジポイント2

グループワーク記録シート

グループワークの記録 		月 日	記録者〔 〕
テーマ	ヨーロッパの自然環境の特徴	 キーワード	アルプス山脈 地中海性気候 西岸海洋性気候 国際河川 観光業 工業 一方で
<p>メモ図に書き込んでまとめてもOK</p> 			
<p>まとめ</p> <hr/> <hr/> <hr/>			

工夫1

ICT機器による、本時の学習課題と学習の流れの確認

〈今日の目標〉
ヨーロッパの自然環境の特徴についてグループで話し合いまとめる。

ポイント

①アルプス山脈を境に南北で大きな違いがある。

②北側：西岸海洋性気候
国際河川を中心として工業が発達した。
一方で

③南側：地中海性気候
地中海の地形と気候を生かした観光業が発達した。

〈今日の目標〉
ヨーロッパの自然環境の特徴についてグループで話し合いまとめる。

地中海性気候 西岸海洋性気候

国際河川 観光業 工業

追加ワード

アルプス山脈 一方で

工夫2

学校独自で作成したグループワーク記録ブック

実施日	役割	ファシリテーター	発言回数
A		与えられた問いに対して、自分なりのゴールを設定してから議論を進めた。	
B		与えられた問いにこたえるために、議論しやすい点から始めた。	
C		発表者から出された意見をまとめることで、一つの答えを導き出した。	
D		発表者の意見を聞くときは、メモを取りながら聞いた。	
E		発表者から出された意見を聞くときには、図や表にまとめながら聞いた。	
F		話しやすい雰囲気づくりに努め、発言者の意見を促すような進行了した。	
G		チームとしての答えが、参加者全員が納得できるものになっているか。	
☆発表者から意見を出してもらっただけの話し合いになった。			
【対発表者】		自分ならもっといい意見が言えたと思う。 (できた) 5・4・3・2・1 (できなかった)	
【対記録】		自分ならもっと上手に記録できたと思う。 (できた) 5・4・3・2・1 (できなかった)	
ずんだこと (わかったこと・疑問に思ったこと・できたこと)			チェック

実施日	役割	発表者 / 記録	発言回数
A		相手の立場や考えを尊重し、自分なりのゴールのイメージをもって、表現の仕方などを工夫して 話し合った/話し合いを記録した。	
B		相手の立場や考えを尊重し、他の発言者の意見を一つ一つ吟味しながら、表現の仕方などを工夫して 話し合った/話し合いを記録した。	
C		相手の立場や考えを尊重し、他の発言者の意見を正確に理解しながら、表現の仕方などを工夫して 話し合った/話し合いを記録した。	
D		キーワードなどをメモに取って聞きながら、表現の仕方などを工夫して話し合った/話し合いを記録した。	
E		図や表などを活用して、表現の仕方などを工夫して 話し合った/話し合いを記録した。	
F		相手の発言を補うために、イラストを描き加えたり、表情や様子などを踏まえたりするなど、自分なりに工夫して 話し合った/話し合いを記録した。	
G		相手の立場を尊重し、意見を引き出すあいづちや意見を伝える身振りをし、表現の仕方などを工夫して 話し合った/話し合いを記録した。	
☆課題を解決するために議論のある発言をできなかった / わかりやすく整理して記録できなかった。			
【対ファシリテーター】		自分ならもっとうまく議論をまとめられたと思う。(できた) 5・4・3・2・1 (できなかった)	
【対記録】		自分ならもっと上手に記録できたと思う。(できた) 5・4・3・2・1 (できなかった)	
【対発表者】		自分ならもっといい意見が言えたと思う。(できた) 5・4・3・2・1 (できなかった)	
ずんだこと (わかったこと・疑問に思ったこと・できたこと)			チェック

事例2

役割分担を明確にした話し合い活動を取り入れた授業実践例②

第1学年

地理A 単元「ヨーロッパ」 全10時間中の第6時

「役割分担を明確にした話し合い活動」の前にペアワークを行うことで、自身の意見を整理するとともに、振り返りをワークシートで可視化することで、思考の流れを確認できるようにした。

本時の目標：ヨーロッパの自然環境の特徴を調べ、EU統合に対するメリットを考察する。

	活動内容	留意点/ポイント	評価工夫
導入	<p>一斉学習 前時を振り返り、単元の問いと本時の目標を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地図をICT機器で拡大投影したものを確認し、ヨーロッパの工業について分かることを発表する。 重工業を行うのに適した地形という視点から、広大な平地と重工業の関係について考えたことを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元の問い、本時の問い、本時の学習事項及び学習の流れをICT機器で提示する。[同・継] 	
	<p>EUはなぜ現在のような形で統合したのだろうか（単元の中心的な問い）</p> <p>ヨーロッパの工業においては、EUの統合はどのようなメリット・デメリットがあるのだろうか（本時の問い）</p>		
展開	<p>ペアワーク グループワークの前段階として、ペアで意見交換をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> スライド資料及び教科書を見て、ヨーロッパの経済におけるドイツの存在感について分かったことを確認する。 「『経済的に大きな存在感をもつこと』が、EUにとってどのような利益と課題をもたらすか」について、互いに考えを発表し合う。 	<p>アレンジポイント1 グループワーク活性化のためにペアで思考のきっかけをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ペアワークの記録を適宜確認し、記録の書き方について指導する。 教科書の単語で意味や読み方が分からないものは、語句の意味表を用いて確認するよう指導する。 	<p>工夫1</p> <p>エ①</p>
	<p>グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の記述及びペアワークの記録に基づき、国際分業についてのメリット・デメリットを話し合う。 	<p>アレンジポイント2 視覚的に情報を理解するためにスライド資料を活用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地図及び図を、ICT機器を用いて示すことで、視覚的に捉えられるようにする。 	<p>工夫2</p> <p>ウ①</p>
まとめ	<p>個人学習</p> <ul style="list-style-type: none"> 「グループワークの記録」で本時の話し合い活動や学んだことについて振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時における自身の役割を自己評価させる。 	

アレンジポイント1	工夫1	ペアワーク用メモと補助資料
------------------	------------	---------------

<p style="text-align: center; border-bottom: 1px solid black;">本時の問い > 工業の特色 > ドイツの存在感 > EU統合と工業 > ふりかえり</p> <p style="text-align: center;">ヨーロッパ主要国の農業生産額 (2010~2012年平均)</p> <p style="text-align: right; font-size: small;">単位:百万ユーロ</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 16.6%;">イギリス</th> <th style="width: 16.6%;">ドイツ</th> <th style="width: 16.6%;">フランス</th> <th style="width: 16.6%;">オランダ</th> <th style="width: 16.6%;">スペイン</th> <th style="width: 16.6%;">ポーランド</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>24,365</td> <td>49,558</td> <td>66,581</td> <td>22,625</td> <td>39,473</td> <td>21,289</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right; font-size: x-small;">出典: Economic Accounts for Agriculture</p>	イギリス	ドイツ	フランス	オランダ	スペイン	ポーランド	24,365	49,558	66,581	22,625	39,473	21,289	<p style="text-align: center; border-bottom: 1px solid black;">本時の問い > 工業の特色 > ドイツの存在感 > EU統合と工業 > ふりかえり</p> <p style="text-align: center;">名目GDPの比較(2019年)</p> <p style="text-align: right; font-size: x-small;">単位:千億ドル</p> <p style="text-align: right; font-size: x-small;">出典: 外務省</p>
イギリス	ドイツ	フランス	オランダ	スペイン	ポーランド								
24,365	49,558	66,581	22,625	39,473	21,289								

★ペアワーク:「ドイツの存在感」

○ヨーロッパ連合(EU)の中において、ドイツは経済的に規模が大きいのか小さいのか?

ヒント:ヨーロッパの他の国と比べて、ドイツは農業や工業は発達しているのか?

メモ:

アレンジポイント2	工夫2	グループワーク用メモと補助資料
------------------	------------	-----------------

<p style="text-align: center; border-bottom: 1px solid black;">本時の問い > 工業の特色 > ドイツの存在感 > EU統合と工業 > ふりかえり</p> <p>★GW「EU統合が工業に与える影響」</p> <p>○教科書(P.99 17行目以降)にあるように、旅客機などの工業製品を複数の国で作る[2]が進んでいる。工業製品を複数の国で作る場合のメリット、デメリットを考えてみましょう。</p>	<p style="text-align: center; border-bottom: 1px solid black;">本時の問い > 工業の特色 > ドイツの存在感 > EU統合と工業 > ふりかえり</p> <p>【EUの統合が工業に与える3つの影響】</p> <p>(1) [3 関税]の撤廃</p> <p>(2) [4 ユーロ(通貨)]の導入</p> <p>(3) [5 シェンゲン]協定</p>
--	---

★グループワーク:「EU統合が工業に与える影響」

○教科書(P.99 17行目以降)にあるように、旅客機などの工業製品を複数の国で作る[2 国際分業]が進んでいる。工業製品を複数の国で作る場合のメリット、デメリットを考えてみましょう。

メモ:

事例3

役割分担を明確にした話し合い活動を取り入れた授業実践例③

第1学年

地理A 「中央アジア・西アジア・北アフリカ」 全7時間中の第2時

「役割分担を明確にした話し合い活動」のコンセプトを踏まえ、年間指導計画上の他の単元「中央アジア・西アジア・北アフリカ」においても応用できるようにした。

本時の目標：中央アジア・西アジア・北アフリカの自然環境の特徴を調べ、ムスリムの生活について考察する。

	活動内容	留意点／ポイント	評価工夫
導入	<p>一斉学習 単元で学習する地域について興味・関心をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習する地域について、以前学んだことを発言し、学習内容の一端を思い出す。 各国におけるムスリムの割合やイスラームの伝播に関する地図を、補助教材等を用いて理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項を確認するために用いる資料は、教科書、ノート、ワークシート等であることを明示する。 イスラームの伝播やムスリムの割合が多い地域と、既習事項の気候条件とを関連付けて、本時の問いを学習する必然性が理解できるよう指導する。 	イ①
	<p>ムスリムの生活とはどのようなものだろうか（単元の中心的な問い）</p> <p>ムスリムの生活様式が広く受け入れられているのはなぜか（本時の問い）</p>		
展開	<p>ペアワーク 個人学習</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の該当ページをペアで読む。 地図帳を活用して中央アジア・西アジア・北アフリカの地理的条件及び気候の特徴をノートに記入する。 穴埋め形式のワークシートを記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ペアワークの記録を適宜確認し、記録の書き方について指導する。 教科書の単語で意味や読み方が分からないものは、語句の意味表を用いて確認するよう指導する。 	工夫1
	<p>グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> 砂漠気候と貿易の関係から、「隊商が砂漠を移動するときに気を付けなければいけないことは何か」という問いに対してグループワークを行い、意見を出し合う。 統合した回答を、ノートに記録者を中心にまとめる。 	<p>アレンジポイント1</p> <p>知識の定着のために、教科書の記述をまとめる。</p>	イ②
まとめ	<p>一斉学習 個人学習</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループの考えを学級全体で共有し、指導者の説明を踏まえて自身の回答を修正する。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時における自身の役割を自己評価させる。 	

アレンジポイント1	工夫1	グループワーク用メモ
-----------	-----	------------

<乾燥した自然環境>教P93
 イスラームが広がる地域……乾燥した【14】
 降水量が（多く or 少なく）、農業が（しやすい or 難しい）
 ↓
 水や草原を求めて、【15】 …… 【16】 が営まれる
 ↓
 交易のために家畜を連れて【17】 …… 【18】 を組んで移動
 ↓

◎ : 砂漠の中を移動する際、気をつけなければいけないことは何か？

Ⓐ : _____
 ↓
 砂漠の中では、【19】 や【20】 が生活するうえでとても重要である。
 「命を守る」 「みんなで同じことをする」

本時の問い：ムスリムの生活様式が広く受け入れられているのはなぜか

Ⓐ

ま
と
め

（参考）本単元の評価規準

ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断・表現	ウ 資料活用の技能	エ 知識・理解
①中央アジア・西アジア・北アフリカにおける諸事象について関心をもち、意欲的に調べようとしている。 ②中央アジア・西アジア・北アフリカの諸課題について、地域性や歴史的背景を踏まえて考察しようとしている。	①中央アジア・西アジア・北アフリカに関する文化的背景から、単元の中心的な問いを設定している。 ②中央アジア・西アジア・北アフリカの諸課題について、自然環境や産業、文化等の現状を踏まえて多面的・多角的に考察し、適切に表現している。	①諸資料から、中央アジア・西アジア・北アフリカの地球的課題や地域的特色に関する情報を読み取っている。	①中央アジア・西アジア・北アフリカの地球的課題や地域的特色について理解している。 ②現代世界の地理的認識を深めている。

6 検証授業の結果

検証授業後に、「普通の授業の取組状況と『役割分担を明確にした話し合い活動』を設定した授業の取組状況の変化」について、生徒対象のアンケートを実施した。結果は図6及び図7のとおりである。

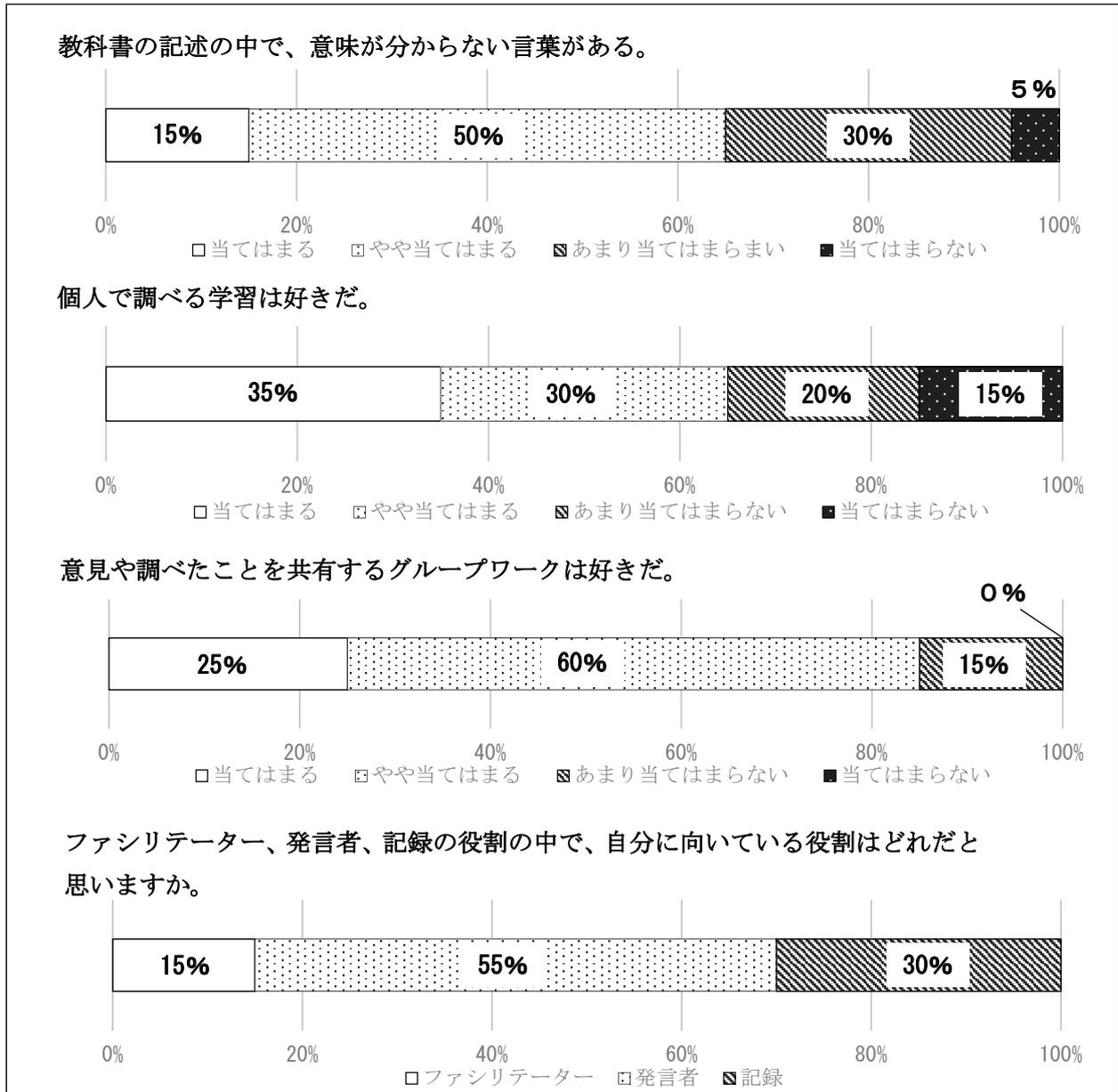


図6 授業後のアンケート結果

「役割分担を明確にした話し合い活動」の授業について、意見を書いてください。

- ・話し合い活動は、他者の意見を聞くことができるので楽しい。
- ・自分が分からない質問でも、周りの意見を聞くことで解答することができる。
- ・話すことで、自分の意見の整理ができるようになる。
- ・周りの意見は、自分が意見を述べる時の参考になる。
- ・周りの意見をまとめて書くのは難しいが、勉強になる。
- ・記録をとるときに、意見と相違がないか確認するようになった。
- ・話し合い活動は、自分の特性を知ることができてよい。

図7 自由記述の結果

(1) 教科書を読解する際の課題に関する質問

「教科書の記述の中で、意味が分からない言葉がある。」という設問では、「当てはまる」、「やや当てはまる」と答えた生徒が65%であり、教科書を読んで理解することそのものに課題意識をもっている生徒の多さが分かる。

(2) 学習形態の違いによる意欲に関する質問

「個人で調べる学習は好きだ。」という設問では肯定的な回答が65%、「意見や調べたことを共有するグループワークは好きだ。」という設問では、肯定的な回答が85%であったことから、生徒は「役割分担を明確にした話し合い活動」を取り入れた授業に対して、肯定的に捉えていることが分かる。

(3) 自由記述

「役割分担を明確にした話し合い活動」に対する自由記述においては、「自分の理解が不足している部分を、他者からの意見で補えると理解が深まる。」という趣旨の意見が多くみられたことから、生徒自身が自ら学習しなければグループ学習が機能しないという状況を意図的に作り出すことで、学習意欲を引き出せることが分かる。また、「ファシリテーター、発言者、記録の役割の中で、自分に向いている役割はどれだと思いますか。」という設問に対しては、「発言者」を選択した生徒が55%であり、自身の考えや意見を他者に聞いてもらいたいと考えている生徒の割合が多いことが分かる。自由記述には「自分の特性を知ることができてよい。」という意見があったことから、自身の特性を理解し、自身の学んだことや考えたことを表現したり発信したりする活動は、生徒の学習意欲を引き出す取組として一定の効果があったと考えられる。

このほか、自由記述には「最初に『EUはなぜ現在のような形で統合したのだろうか』というゴールが設定してあったので、文章を読み取ったり意見を述べたりする際に何を考えればいいか分かりやすかった。」という意見があったことから、グループ活動という「形式」のみならず、グループ活動で「何を思考させるか」という単元の中心的な問いや、1単位時間における問いの設定が学習意欲を引き出す上で重要であることも分かった。

(4) 検証授業及びアンケート結果の考察

本検証授業における検証のポイントは、次の2点であった。

- ・「役割分担を明確にした話し合い活動」を設定し、生徒が自身の認知特性の傾向を把握すること
- ・自身の認知特性の傾向を把握したことで、自分がどのように学習に取り組んだらよいかを考え、学習に結び付けようとする意欲を向上させること

自由記述の「話し合い活動は、自分の特性を知ることができてよい。」という意見から、生徒に対して、自身の特性を把握するきっかけとなっていたことが分かる。また、直接的な言及ではないものの、「聞くことで解答できる。」という意見や「話すことで、自分の意見の整理ができるようになる。」という意見からは、役割分担を明確にした話し合い活動が、自身の学習に対する認知特性の自覚を促したと考えられる。こうした記述は「自身の認知特性の傾向を把握したことで、自分がどのように学習に取り組んだらよいかを考え、学習に結び付けようとする意欲を向上させること」にもつながると考えられる。また、「周りの意見をまとめて書くのは難しいが、勉強になる。」という記述や「記録をとるときに、意見と相違がないか確認するようになった。」という記述は、明らかに学習に対する態度の変容である。本研究において提案した「役割分担を明確にした話し合い活動を取り入れた学習」を設定した授業が、自身の認知特性の自覚を促し、次の学習にどのように取り組もうかという意欲を引き出したことの結果であると考えられる。このことから、本研究部会で提案した授業形態が、新学習指導要領が示す「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業改善の一つの姿であったと考える。

第6 研究の成果と今後の取組

1 研究の成果

本研究では、「読み書きアセスメント」における「学力達成テスト」の分析結果と「学校で見られる行動のチェックリスト」を関連させた「ステータスシート」を活用することにより、生徒一人一人の学習上のつまずきと認知特性の傾向を把握した。また、生徒一人一人の学習上のつまずきを基に、読解力の向上を目的とした指導・支援の工夫の方法と、生徒自身が自身の認知特性の傾向を把握し、学習に生かすための授業づくりのモデルを開発した。これらを活用して地理歴史科「地理A」の授業において検証授業を実施し、指導法の分析を行った。

その成果としては、以下のことが挙げられる。

- ・指導者が、「ステータスシート」を活用することで、自身の知識や経験に基づく生徒理解に加え、生徒一人一人の学習上のつまずきと認知特性の傾向を客観的に把握することができ、指導計画の作成や、実際の授業に生かすことができた。

- ・生徒自身が自身の認知特性の傾向を把握できる学習形態である「役割分担を明確にした話し合い活動」の実施により、生徒が自分のよさや可能性を認識し、学習に取り組もうとする態度及び学習意欲が向上した。

これらは「学びの基盤」プロジェクトの趣旨を踏まえたものであり、生徒の「自ら学ぶ力」を向上させる取組の一助となったと考える。また、本研究で提案した学習形態は、これまで教員が主体になりがちであった授業を、生徒が中心になって進めていくという「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた指導観の転換につながったと考える。そして、生徒を中心とした授業は、生徒が自らの認知特性を自覚し、その特性に合わせて自身の学びを選択するという自己調整力を高め、個別最適な学びにつながるものである。

本研究において2年間で開発した指導法や、ステータスシートをはじめとした指導資料は、東京都教職員研修センターのウェブページに公開し、広く活用できるようにした。研究の普及とともに、指導力の向上を目指す教員の活用を期待するものである。

2 今後の取組

本年度（2年次）の研究では、1年次の研究を踏まえて、「自ら学ぶ力」を向上させる手だて「役割分担を明確にした話し合い活動」を取り入れた授業モデルを開発し、検証したことで、生徒の「学習意欲」についての向上は認められた。しかしながら「自ら学ぶ力」は、「学びの基盤」プロジェクトにおいて「知識や技能をアップデートし続け、自己変革できる」と定義付けられており、学習意欲の向上は、その第一歩に過ぎない。本年度の研究において得られた成果を基に、自身の認知特性の傾向を生かしてどのように自身の知識や技能をアップデートし、得意なことを生かしたり、苦手なことを克服したりする姿勢につなげるかという点については、継続的な指導とその評価が必要である。

また、昨年度、本研究部会で開発した読解力を向上させるための国語科「国語総合」の学習指導モデル及び本年度開発した「役割分担を明確にした話し合い活動」を取り入れた地理歴史科「地理A」及び公民科「現代社会」の授業モデルとともに、読解力や学習意欲を向上させるための観点、指導への取り入れ方を分かりやすく解説した指導資料を作成する。それらを用いて都立高等学校において、全ての生徒に基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させるための授業改善に活用できるよう、本研究の普及を図っていく。

<資料>

公民科（現代社会）学習指導案

1 単元名

「現代の経済社会と国民生活」

第1章 「現代の経済社会」 「金融の役割」から「日本の財政の課題」

2 単元の目標

日本の抱える金融・財政の課題を見だし、それについて思考し判断したことを自他に対して適切に表現する。

3 単元の評価規準

ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断・表現	ウ 資料活用の技能	エ 知識・理解
政府の経済的役割について関心を持ち、現代の経済社会の諸事象を的確に捉えようとしている。	財政や金融の課題を見だし、他者との検討を通して多角的・多面的に検証し、適切に表現している。	財政や金融の課題について考察したことや学習の成果について、教科書や資料から適切にまとめ、効果的に活用している。	財政や金融のしくみと機能に関する知識を、法的根拠とともに身に付け、国民福祉の向上と関連付けて理解を深めている。

4 単元の指導計画（全6時間）

時	・学習活動	○評価
第1時	<ul style="list-style-type: none"> 金融の役割と機能について確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> <p>単元の中心的な問い：生きたお金の使い方とはどのような使い方だろうか</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 財政上の問題点から単元の本質的な問いを設定し、仮の結論を発表する。 	○ア ○エ
第2時	<ul style="list-style-type: none"> 金融の役割と機能について確認する。 金融機関や金融市場の役割等について、資料を活用してワークシートにまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> <p>本時の問い：どのようにお金を使うことが経済の発展につながるのだろうか</p> </div>	○ウ
第3時	<ul style="list-style-type: none"> 中央銀行の役割、金融市場の仕組み、金融政策の目的と手段についてグループ協議を行うとともに、ワークシートにまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> <p>本時の問い：金融政策は、経済にどのようなメリットがあるだろうか</p> </div>	○イ
第4時	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> <p>本時の問い：税金はどのように集められ、どのように使われているのだろうか</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> グループ協議を通じて財政政策の意義や役割及び財政の基礎となる租税について理解し、ワークシートにまとめる。 	○イ
第5時	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> <p>本時の問い：国債を減らすためには、どうすればよいだろうか</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 第4時の学習内容を踏まえて考察した内容や学習の成果を基に、多様な資料から事例を収集し、ワークシートにまとめる。 	○イ ○ウ
第6時	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> <p>単元の中心的な問い：生きたお金の使い方とはどのような使い方だろうか</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 第1時で設定した単元の本質的な問いについて、自身の考えをこれまでの学習を基に多角的・多面的に検討し、ワークシート上に表現する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> <p>単元の中心的な問い「生きたお金の使い方とはどのような使い方だろうか」に対する考えのまとめの例 生きたお金の使い方は、循環させることであると考える。お金の循環とは国、家庭、企業のお金が資金として循環し、必要などところに供給されることである。 今まで、私は、自分が仕事することで給与として支払われるお金は、自分のものであると思っていたが、企業にお金があるからこそ支払われるものであり、企業にお金があるためには、国として景気が安定していることが必要である。景気の安定のためには、資金が過不足なく循環することが必要であり、個人が手元にお金を置いたり使ったりするだけでは生きたお金とは言えない。 また、国民として、国家を安定させるためにも、税金を支払うことは大切なことである。あるいは、国債を購入したり、企業に投資したりして、国全体の資金の流れや景気に積極的に関心をもつことも大切だと思う。</p> </div>	○ア ○エ

5 単元における「分かり方の特性」に応じた指導・支援のポイント

教育庁指導部特別支援教育指導課が作成した『読めた』『わかった』『できた』読み書きアセスメント（平成30年9月20日）の「学校で見られる行動のチェックリスト」及び平成28年度東京都教職員研修センター教育課題研究「子供一人一人の『分かり方の特性』を生かした指導法に関する研究」における指導法を活用し、それぞれの得意な傾向に合わせた指導を行うことで、生徒の理解度の向上を図る。

なお、生徒一人一人の「分かり方の特性」はいずれかの得意な傾向に依存するものではなく、どの特性がより優位であるかを示すものであるため、いずれかの傾向に傾倒しないようにすることが重要である。

(1) 情報を処理する手段を生かした指導・支援の工夫

継次処理能力優位を生かした授業の展開
教科書を順次読解するが、前時の内容を踏まえつつ新たな視点を付け加えて授業を展開することで、意味段落同士のつながりを理解しやすくする。
同時処理能力優位を生かした授業の展開
第1時に本文を通読し、文章が何を主張しているかということをも単元の中心的な問いとして設定し、その問いに対する答えを結論として仮に設定することで単元の見通しをもたせる。

(2) 情報を知覚する手段の優位性を生かした指導の手だて

聴覚優位	言語視覚優位
<ul style="list-style-type: none"> ○音読又は黙読の際に、唇を動かして読ませる。 ○濁音、半濁音、拗音をはっきりと発音し、理解させる。 ○ペア又はグループで話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○音読又は黙読の際に、難読語の読みを確認させる。 ○本文中の重要語句を丸で囲ませたり、キーワードを箇条書きにしたりする。 ○グループワークの際の視点を文字で表す。
象形視覚優位	体感覚優位
<ul style="list-style-type: none"> ○本文の内容を意味段落のまとまりで図示する。 ○ICT機器を用いて、授業内容に関する写真や映像を提示する。 ○重要語の対比構造が明確な板書を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ペア又はグループで話し合う。 ○本文中の重要語に線を引いたり書き出させたりしたものを基に、話し合い活動を行う。 ○音読又は黙読の際に、唇を動かして読ませる。

(3) 読み書きアセスメントの結果を踏まえた指導の手だて

事前に実施した「『読めた』『わかった』『できた』読み書きアセスメント」の問題を、読解に関連する問と漢字の知識に関連する問とに分類し、それぞれの正答率を基に生徒をA領域からD領域の4領域に分類した。

領域名	分類条件
A領域	読解に関連する問と漢字の知識に関連する問のそれぞれの正答率が共に50%以上である生徒
B領域	読解に関連する問の正答率は50%以上であるものの、漢字の知識に関連する問の正答率が50%未満である生徒
C領域	漢字の知識に関連する問の正答率は50%以上であるものの、読解に関連する問の正答率が50%未満である生徒
D領域	読解に関連する問と漢字の知識に関連する問のそれぞれの正答率が共に50%未満である生徒

読み書きアセスメントの結果を基に、以下の指導の手だてを学級の傾向に応じて組み合わせることで、基礎的な学力の向上を図る。

ア B領域の生徒に対する指導の手だて

- (ア) 語句の意味表を活用し、語彙力及び漢字の読み書きの能力や、学習した語句を適切に使用する力の向上を図る。
- (イ) 中学校程度の基本的な語を、授業の中で指導者が平易な言葉に言い換えて、意味を確認しながら読解を行うことで、基本的な語彙力の向上を図る。

イ C領域の生徒に対する指導の手だて

本文中にある接続語の意味や使い方、指示語の指示内容を丁寧に確認しながら読解を行うことで、文と文のつながりや段落同士のつながりを意識して読む態度を養う。
これらの手だてに加え、学校で見られる行動のチェックリスト及び児童・生徒の得意な処理の傾向を簡易的に把握するためのチェックリストの結果を用いて、生徒一人一人の傾向に合わせてペアワークやグループワークの編成を工夫したり、指導の手だてを工夫したりする。

6 本時の展開（全6時間中の第5時）

本時の目標：日本の財政の課題について考察したことや学習の成果について、教科書や資料から適切にまとめる。

時間	○学習内容 ・学習活動	指導上の留意点 配慮事項	「分かり方の特性」又は読み書き アセスメントの結果における 各領域に配慮した指導上の工夫	学習活動に即 した具体的な 評価規準 (評価方法)
導入	○前時までの内容を振り返り、単元の中心的な問いを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 単元の中心的な問いの解決に向けて、財政の課題について学ぶ必要があることを確認する。 前時の振り返りとして、語句の意味表のP130からP132までの用語を確認する。 	<p>語句の意味を捉えるために</p> <p>[言・象]ルビを振ったカードで示す。必要に応じて、イラストで示す。</p> <p>[体]必要に応じて、体を使って意味を表現するよう促す。</p>	
展開	<p>○税制改革の動向の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> 「一般会計の歳入・歳出」の1988年と2014年のグラフを比較し、違いを見付ける。 直間比率の違いによる変化に気付く。 <p>・具体的な税制改革の例を確認する。(消費税導入、所得税の減税、法人減税、東日本大震災の復興経費をまかなうための臨時増税、地球温暖化対策税等)</p> <p>○「国債」について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 税制改革を行っても、租税に必要な歳出をまかなえないときに国が行う借金が「国債」であることを理解する。 本時の問いを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> グラフの違いについて気付かせることを重視し、本時の中心的な活動につなげる。 グラフを読み取る上でも重要な語であるため、丁寧に確認する。 	<p>グラフの理解のために</p> <p>[聴]グラフの違いを声に出して確認するよう促す。</p> <p>[言]グラフの違いを文章でまとめるよう促す。</p> <p>[象]変化した部分に色を塗り、大切なポイントに気付くよう促す。</p> <p>[体]変化している箇所を指で示し、説明するよう促す。</p> <p>税制改革の理解のために</p> <p>[聴]声に出して読ませる。</p> <p>[言・象]ルビを振ったカードで示す。必要に応じてイラストで示す。</p> <p>[体]必要に応じて、体を使って、意味を表現するよう促す。</p> <p>「国債」の理解のために</p> <p>[聴]声に出して読むよう促す。</p> <p>[言・象]ルビを振ったグラフを示す。必要に応じて、イラストで示す。</p>	
国債を減らすためには、どうすればよいだろうか				
	<p>○グラフの読み取り</p> <ul style="list-style-type: none"> 以下の①②のグラフを基に、気付いた点、国債についての課題をワークシートにまとめる。 ①130ページ「一般会計の歳入・歳出」 ②133ページ「財政の歩み」 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートの表面と裏面のどちらを使ってまとめてもよいことを伝える。 絵を使ったり、表や図を用いたりしてもよいことを教師のまとめ方の例で示す。 ワークシートにまとめられないときに使える手段を確認する。 ①教員と相談する。 ②友達と相談する。 ③教科書等で調べる。 	<p>グラフの読み取りのために</p> <p>[聴]気付いたことを声に出して確認するよう促す。</p> <p>[言・象]増加や減少などを矢印等で書き込むよう促す。</p> <p>[体]増加や減少などを体を使って表現するよう促す。</p> <p>《C》国債残高や国債依存度が増加、減少した理由を考えさせ、文章でワークシート中に書くよう促す。</p>	ウ 教科書のグラフを活用し、ワークシートに取り組んでいる。(机間指導、ワークシート)

	<p><グループワーク></p> <ul style="list-style-type: none"> ・国債を減らすためにできることの見解を出し、自分なりの考えをもつ。 1 グラフの特徴の共有 2 国債についての課題 3 国債を減らすための方策 <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの結果をワークシートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ステータスシートに基づいて、意図的にグループ編成を行う。 ・机間指導を行い、課題の進捗状況を確認するとともに、円滑に活動が進むように、手段を活用するように促す。 	<p>グループワークの活性化のために、各グループを机間指導により随時個別指導を行う。個別指導は、グループワークにおける役割と、担当している生徒の認知特性に応じて行う。</p>	<p>イ 財政の課題について考察したことを資料から適切にまとめ、効果的に活用している。（ワークシート）</p>
	<p>グループの意見の例</p> <p>例「消費税を15%に引き上げ、法人税は減税しない。」 「申告漏れや脱税をなくすために、自営業を含めた個人の所得を電子データで管理する。」</p>			
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークで統合した意見に対し、自身の考えとして是非かを問う。 <p>○単元の中心的な問いに対する考えをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「国債を減らす」という目標と、そのための方策が自身の生活に直結することを理解し、その上でグループで考えた意見のメリットとデメリットについて思考する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の意見をノートに記述させ、提出させる。 		

現代の経済社会と国民生活 第一章 現代の経済社会 P126～P133

語句の意味表

ページ	語句	意味と例文	その他
128	じゅうよう 需要		
128	インフレ		
129	たんぽ 担保		
129	かねつ 過熱	加熱と使い分けよう	
130	こよう 雇用		
130	しんしゅく 伸縮		
130	ししゅつ 支出		対義語は？
131	のうにゅう 納入		
131	ふたん 負担		
131	ぎやくしんせい 逆進性		
131	こうりょ 考慮		

ページ	語句	意味と例文	その他
132	しんせつ 新設		
132	かいかく 改革		
132	せつびとうし 設備投資		
132	ほうじん 法人		
132	ひほん 批判		
132	ふっこう 復興		
132	いぞん 依存		
132	じゅうなん 柔軟		対義語は？
133	るいぞう 累増		
133	かじょう 過剰		
133	ぼうらく 暴落		

地 理 A 学 習 指 導 案

1 単元名

「ヨーロッパ」

2 単元の目標

ヨーロッパにおける諸課題について、自然環境や産業、文化等の現状を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を深める。

3 単元の評価規準

ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断・表現	ウ 資料活用 of 技能	エ 知識・理解
①ヨーロッパにおける諸事象について関心をもち、意欲的に調べようとしている。 ②ヨーロッパの諸課題について、地域性や歴史的背景を踏まえて考察しようとしている。	①ヨーロッパに関する社会的事象から、中心的な問いを設定している。 ②ヨーロッパの諸課題について、自然環境や産業、文化等の現状を踏まえて多面的・多角的に考察し、適切に表現している。	①諸資料から、ヨーロッパの地球的課題や地域的特色に関する情報を読み取っている。 ②読み取った複数の情報から、分かることを分析している。	①ヨーロッパの地球的課題や地域的特色について理解している。 ②現代世界の地理的認識を深めている。

4 単元の指導計画（全6時間）

時	・学習活動	○評価
第1時	<ul style="list-style-type: none"> 社会的な事象からヨーロッパについて関心をもち、生徒の疑問から、本単元における中心的な問いを見いだす。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 単元の中心的な問い：なぜEUは、現在のような形で統合したのだろうか </div> <ul style="list-style-type: none"> 本質的な問いに対する予想をもち、予想を検証するための学習計画を立てる。 	○ア① ○イ①
第2時	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 本時の問い：ヨーロッパの地形や気候は、EUの統合にどのようなメリットがあるのだろうか </div> <ul style="list-style-type: none"> ヨーロッパの自然について調べる。 産業や人々の生活と、自然環境とのかかわりについて考えをもち。 	○ウ① ○エ①
第3時	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 本時の問い：ヨーロッパの農業において、EUの統合はどのようなメリットやデメリットがあるのだろうか </div> <ul style="list-style-type: none"> ヨーロッパの農業について、自然条件と関連付けて調べる。 農業の面から、EUの統合についてのメリット・デメリットにはどのようなものがあるか考察し、まとめる。 	○ウ① ○エ①
第4時	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 本時の問い：ヨーロッパの工業において、EUの統合はどのようなメリット・デメリットがあるのだろうか </div> <ul style="list-style-type: none"> ヨーロッパの工業について、自然条件と関連付けて調べる。 工業の面から、EU統合についてのメリット・デメリットにはどのようなものがあるか考察し、まとめる。 	○ウ① ○エ①
第5時	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 本時の問い：EUの統合は、ヨーロッパの文化にどのような影響をあたえたのだろうか </div> <ul style="list-style-type: none"> ヨーロッパの宗教と文化について、自然条件と関連付けて調べる。 宗教と文化の面から、EUの統合についてのメリット・デメリットにはどのようなものがあるか考察し、まとめる。 	○ウ② ○エ②
第6時	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 単元の中心的な問い：なぜEUは、現在のような形で統合したのだろうか </div> <ul style="list-style-type: none"> 本単元における中心的な問いに対して考えをもち。 第1時の予想と比較したり、学級内で考えを共有したり、議論したりして、考えを整理・深化する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 単元の中心的な問い「なぜEUは、現在のような形で統合したのだろうか」に対する考えのまとめの例 EUの統合はヨーロッパの人々が、統合について考えたときに、その当時よりも「安定した生活」と「自国の発展」を求めた結果であると考えられる。 地域には、それがもつ地理的な理由に基づいた、よりよい姿が求められている。地域の文化や宗教、農業や工業といった、複数の要素に基づいて考えたとき、EUとして統合することのメリットとデメリットが存在することが分かった。ヨーロッパの人々は、EUとして統合することの是非や、自国の加盟や脱退について考えたとき、このメリットとデメリットについて考えているのだと思う。 </div>	○イ② ○ア②

5 本時の展開（全6時間中の第2時）

本時の目標：EU統合の背景を知るために、背景の一つであるヨーロッパの自然環境について、調べてまとめる。

時間	○学習内容 ・学習活動	指導上の留意点 配慮事項	「分かり方の特性」又は読み書き アセスメントの結果における 各領域に配慮した指導上の工夫	学習活動に即 した具体的な 評価規準 (評価方法)
導入	<p>○前時の活動を振り返り、単元の中心的な問いを確認する。</p> <p>○単元の中心的な問いの解決に向けて、本時の問いを確認する。</p> <p>・多数の国同士が統合するために有利な条件を前時の内容から確認する。</p>	<p>・EUは国のような法、欧州旗、共通通貨、移動の自由をもっていることをワークシートや教科書P100、P101等から確認するよう促す。</p> <p>・「陸続き」が生徒から出るよう工夫する。</p>	<p>本時の問いを導くために</p> <p>[同]地図帳を用いて、ヨーロッパと日本を重ねて比較し、ヨーロッパが陸続きであることや、高緯度であることに気付くようにする。</p> <p>[継]国同士の統合の条件を考えることで、背景を知るために必要である自然環境につなげていく。</p> <p>[言・体]ペア・グループでの話し合いや発表を行う。</p>	
<p>ヨーロッパの地形や気候は、EU統合にどのようなメリットがあるだろうか</p>				
展開	<p>○EUの統合の背景を知るために、ヨーロッパの自然環境について調べ、ワークシートにまとめる。</p> <p>・地図帳を用いて、ヨーロッパがどこに位置しているのか地図上で確認する。</p> <p>・教科書P92、P93を読み、ヨーロッパの地形と気候と人々の生活について自分の考えをノートにまとめる。</p> <p><グループワーク></p> <p>・ワークシートに書いた意見をグループで共有し、自然環境の特徴を統合する。</p>	<p>・単元の中心的な問いの解決に向けて、EUの統合の背景の一つであるヨーロッパの地形について学ぶ必要性を伝える。</p> <p>・白地図を配布し、地図帳を参考に、海流、風、山脈、河川等を記入させる。</p> <p>・周囲の友達と話し合いながら書いてもよいことを伝える。</p> <p>・多様な地形や高緯度のわりに冬が温暖な気候に注目するようにし、観光地が多いことに気付くよう促す。</p>	<p>学習を進めるために</p> <p>[継]本時の学習の流れを示す。</p> <p>[同・言]本時の学習事項を具体的に示す。</p> <p>地理情報の理解のために</p> <p>[聴]地図で示された情報を音声で表す。</p> <p>[言]ヨーロッパの地形が分かるワークシートを、黒板に明示する。</p> <p>[象]ICT機器等を活用し、絵や図などの情報を取り入れる。</p> <p>《B》地理的な用語や一般語をまとめた語句の意味表を活用する。</p> <p>《C》指示語や接続語を用いて、文章で書くよう指導する。</p> <p>[聴]伝え合いを通して、意見を出させる。</p> <p>[象]特色や出た意見を整理して板書する。</p>	<p>ウー①</p> <p>ヨーロッパの自然環境についての情報を読み取り、EU統合と関連することを分析している。 (観察、ノート)</p>
<p>【生徒の考えの統合例】 EUとして見ると、アルプス山脈を境に北側が西岸海洋性気候、南側が地中海性に分かれる。 北部は国際河川を中心として農業や工業が発達した。対して、南部は地中海の地形と気候を生かしたリゾート業が発達し、観光地も多い。</p>				

<p>まとめ</p>	<p>○ヨーロッパの国々について、それぞれの気候を基に、産業とEU統合のメリットについて自身の考えをワークシートに書く。</p> <p>・自身の考えを生徒同士で伝え合うことで交流を図る。</p>	<p>・EUの統合において、ヨーロッパの地理的環境はメリットであることに気付くよう促し、地理的環境を生かした農業を学ぶことにつなげていく。</p>	<p>【交流後の意見の統合例】</p> <p>・国単位で見ると、EUとして見た場合、一つの地域に工業、農業、漁業、観光業等様々な業種が存在することとなり、単業種への経済的依存度が下がる。さらに、国家間の関税を撤廃することにより、物品の流通量が増加する。また、通貨、パスポートの共通化によって、より広い地域からの労働力、観光客の流動が期待でき、メリットが大きい。</p>	<p>エー①</p> <p>ヨーロッパの自然環境の特色について理解している。（観察、ワークシート、ノート）</p>
<p>振り返り</p>	<p>○本時の振り返りをする。</p> <p>・何を学んだのか、どのように学んだのか、次に学習することをワークシートに書く。</p>	<p>・次時はヨーロッパの農業について学習することを確認する。</p>		

ヨーロッパ 語句の意味表

ページ	語句	意味と例文	その他
92	きゅうしゅん 急峻	非常に険しいこと。または、そういう場所。 ※「峻」は高い、険しい、厳しい等の意味がある。	対義語は何だろう。
92	けいかん 景観	風景の外観。景色、眺めやその美しさ。	
93	きゅうりょう 丘陵	小山、丘。 ※山地よりも低くならかな場所を指す。	
93	こうばい 勾配	傾斜面の傾きの度合い。	
95	らいはい 礼拝	神仏を拝むこと。	
95	ぶんぶ 分布	①分かれてあちこちにあること。 ②あるものが地理的、時間的なる特定の範囲に存在すること。	
95	ぶんだん 分断	いくつかに分断して分けること。	逆に合わせることは何というだろう。
97	あかんたいきこう 亜寒帯気候	温帯と寒帯の中間の地帯。 ※「亜」には「次ぐ」「準じる」の意味がある。	
97	しゅつか 出荷	①荷物を積み出すこと。 ②商品を市場に出すこと。	
97	きんこう 近郊	都市に近い郊外。 ※「郊外」は「市街地に隣接した地域」の意味。	
99	じばきんぎょう 地場産業	特定の自然的・歴史的条件をもつ土地において特産品を製造する産業。 ※自分の住んでいる場所の地場産業は何？	

ページ	語句	意味と例文	その他
99	てんかん 転換	物事の性質、傾向、方針などが、それまでとは変えること。または変えること。	
99	りんかいぶ 臨海部	海辺にある一定の範囲。 ※「臨む」は「見下ろす」「直面する」の意味。 ※東京の「臨海部」はどこ？	
101	てっばい 撤廃	撤廃して廃止すること。 ※「撤」が「取り払う」「除く」で、「廃」は「廃れる」「衰える」の意味。	
101	けねん 懸念	気にかけて不安に思うこと。 ※「懸」には「吊り下げる」、「念」は「気に掛ける」の意味。	